

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 扶桑化学工業㈱ 京都第二工場 FSUP-10建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.30</b>			<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.6</b>	<b>0.15</b>			<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	<b>0.40</b>			
1.2 遮音						<b>3.0</b>	<b>0.40</b>			
1 開口部遮音性能						-	-			
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	<b>1.00</b>			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.2</b>	<b>0.35</b>			<b>1.2</b>
2.1 室温制御						<b>1.5</b>	<b>0.50</b>			
1 室温						<b>1.0</b>	<b>0.38</b>			
2 外皮性能						<b>3.0</b>	<b>0.25</b>			
3 ゾーン別制御性						<b>1.0</b>	<b>0.38</b>			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	<b>0.30</b>			
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.4</b>	<b>0.25</b>			<b>2.4</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	<b>0.43</b>			
1 昼光率						<b>1.0</b>	<b>0.60</b>			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	<b>0.40</b>			
3.2 グレア対策						-	-			
1 昼光制御						-	-			
3.3 照度						<b>3.0</b>	<b>0.21</b>			
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	<b>0.36</b>			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.9</b>	<b>0.25</b>			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	<b>0.50</b>			
1 化学汚染物質		内装仕上げ材はF☆☆☆☆				<b>4.0</b>	<b>1.00</b>			
4.2 換気						<b>3.0</b>	<b>0.30</b>			
1 換気量		換気量:83.3m <sup>3</sup> /h・人				<b>5.0</b>	<b>0.33</b>			
2 自然換気性能						<b>1.0</b>	<b>0.33</b>			
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>			
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	<b>0.20</b>			
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-			
2 喫煙の制御		建屋内禁煙				<b>5.0</b>	<b>1.00</b>			
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>			<b>2.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>1.8</b>	<b>0.40</b>			<b>1.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>1.6</b>	<b>0.40</b>			
1 広さ・収納性						<b>1.0</b>	<b>0.33</b>			
2 高度情報通信設備対応						<b>1.0</b>	<b>0.33</b>			
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>			
1.2 心理性・快適性						<b>1.3</b>	<b>0.30</b>			
1 広さ感・景観						<b>1.0</b>	<b>0.33</b>			
2 リフレッシュスペース						<b>2.0</b>	<b>0.33</b>			
3 内装計画						<b>1.0</b>	<b>0.33</b>			
1.3 維持管理						<b>2.5</b>	<b>0.30</b>			
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	<b>0.50</b>			
2 維持管理用機能の確保						<b>2.0</b>	<b>0.50</b>			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.8</b>	<b>0.30</b>			<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	<b>0.50</b>			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	<b>0.80</b>			
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	<b>0.30</b>			
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		フッ素樹脂吹付:30年				<b>5.0</b>	<b>0.20</b>			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.10</b>			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.10</b>			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
2.4 信頼性						<b>1.4</b>	<b>0.20</b>			
1 空調・換気設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
2 給排水・衛生設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
3 電気設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
5 通信・情報設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			

<b>3 対応性・更新性</b>			2.1	0.30		-	2.1
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30		-	
1	階高のゆとり		1.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.14	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			2.2	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		1.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		1.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40		-	2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺建物と高さを合わせ、調和を図っている。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							3.0
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.76	3.4	0.63		-	3.4
4 効率的運用			3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	2.6
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+PB+EP-G塗・クロスのため躯体と仕上材の分離が容易	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:92%	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置はない。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車台数の確保	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.50		-	
2	振動		3.0	0.50		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	